

1 麦類病害虫

(1) オオムギ・コムギ薬剤一覧

RPA

病害虫名		薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数	備考
斑葉病	播種前	トリフミン水和剤	トリフミン [®] 水和剤	3		種子重量の0.5%	-	は種前	種子粉衣	1回	
		ベントレートコート	チラム・ベ [®] ノミル粉剤	1,M3		乾燥種子重量の		は種前	種子粉衣	1回	小麦、大麦
		ベントレート水和剤20	チラム・ベ [®] ノミル水和剤	1,M3		乾燥種子重量の		は種前	種子粉衣	1回	小麦、大麦
						20倍		は種前	10～20分間種子浸漬	1回	
						200倍		は種前	6～24時間種子浸漬	1回	
		ホーマイ水和剤	チラム・チオファネートメチル水和剤	1		種子重量の0.5～1.0%		は種前	種子粉衣	1回	麦類(小麦を除く)
						200倍		は種前	6～24時間種子浸漬	1回	麦類(小麦を除く)
						種子重量の0.5～1.0%		は種前	種子粉衣	1回	小麦
200倍						は種前	6～24時間種子浸漬	1回	小麦		
なまぐさ黒穂病	播種前	トリフミン水和剤	トリフミン [®] 水和剤	3		種子重量の0.5%	-	は種前	種子粉衣	1回	
		ベントレートコート	チラム・ベ [®] ノミル粉剤	1,M3		乾燥種子重量の0.5%		は種前	種子粉衣	1回	小麦、大麦
		ベントレート水和剤20	チラム・ベ [®] ノミル水和剤	1,M3		乾燥種子重量の0.5%		は種前	種子粉衣	1回	小麦、大麦
						20倍		は種前	10～20分間種子浸漬	1回	
						200倍		は種前	6～24時間種子浸漬	1回	
		ホーマイ水和剤	チラム・チオファネートメチル水和剤	1		種子重量の0.5～1.0%		は種前	種子粉衣	1回	麦類(小麦を除く)
						200倍		は種前	6～24時間種子浸漬	1回	麦類(小麦を除く)
						種子重量の0.5～1.0%		は種前	種子粉衣	1回	小麦
200倍						は種前	6～24時間種子浸漬	1回	小麦		
裸黒穂病	播種前	トリフミン水和剤	トリフミン [®] 水和剤	3		種子重量の0.5%	-	は種前	種子粉衣	1回	麦類
		ベントレートコート	チラム・ベ [®] ノミル粉剤	1,M3		乾燥種子重量の		は種前	種子粉衣	1回	小麦、大麦
		ベントレート水和剤20	チラム・ベ [®] ノミル水和剤	1,M3		乾燥種子重量の		は種前	種子粉衣	1回	小麦、大麦
						200倍		は種前	6～24時間種子浸漬	1回	
				20倍		は種前	10～20分間種子浸漬	1回			
雲形病	播種前	ベントレート水和剤20	チラム・ベ [®] ノミル水和剤	1,M3		乾燥種子重量の		は種前	種子粉衣	1回	小麦、大麦
	3月下旬～4月上旬	フルト乳剤25	ブロビコザ [®] 乳剤	3		1000倍	60～150 μ l/10a	収穫21日前まで	散布	1回	大麦

病害虫名		薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数	備考
雪腐病	根雪前	トップジンM水和剤	チオファネートメチル水和剤	1		1000～2500倍	60～150 μ g/10a	根雪前	散布	3回以内(出穂期以降は2回以内)	小麦
						1000～2500倍	60～150 μ g/10a	根雪前	散布	3回以内(出穂期以降は1回以内)	麦類(小麦を除く)
うどんこ病	発生初期	トップジンM水和剤	チオファネートメチル水和剤	1		1000～2000倍	60～150 μ g/10a	収穫30日前まで	散布	3回以内(出穂期以降は1回以内)	麦類(小麦を除く)
						1000～2000倍	60～150 μ g/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内(出穂期以降は2回以内)	小麦
赤かび病	1回目 開花期(穂揃期) 2回目 1回目の7～10日後	シルバキアフロアブル	テブコナゾール水和剤	3		2000倍	60～150 μ g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	小麦
						2000倍	60～150 μ g/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内	大麦
						16倍	0.8 μ g/10a	収穫14日前まで	無人航空機による散布	2回以内	大麦
						16倍	0.8 μ g/10a	収穫7日前まで	無人航空機による散布	2回以内	小麦
		ストロビートフロアブル	クレソキシムメチル水和剤	11		2000～3000倍	60～150 μ g/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	麦類(小麦を除く)
						2000～3000倍	60～150 μ g/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	小麦
		フィル乳剤25	プロビコナゾール乳剤	3		8倍	800mL/10a	収穫21日前まで	無人航空機による散布	1回	大麦
						8倍	800mL/10a	収穫7日前まで	無人航空機による散布	3回以内	小麦
						1000～2000倍	60～150 μ g/10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	小麦
						1000～2000倍	60～150 μ g/10a	収穫21日前まで	散布	1回	大麦
		トップジンMYウル	チオファネートメチル水和剤	1		8倍	0.8 μ g/10a	収穫14日前まで	無人航空機による散布	3回以内(出穂期以降は2回以内)	小麦
						8倍	0.8 μ g/10a	収穫21日前まで	無人航空機による散布	3回以内(出穂期以降は1回以内)	麦類(小麦を除く)
		トップジンM水和剤	チオファネートメチル水和剤	1		1000～1500倍	60～150 μ g/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内(出穂期以降は2回以内)	小麦
						1000～1500倍	60～150 μ g/10a	収穫30日前まで	散布	3回以内(出穂期以降は1回以内)	麦類(小麦を除く)
		トップジンM粉剤DL	チオファネートメチル粉剤	1		3～4kg/10a		収穫14日前まで	散布	3回以内(出穂期以降は2回以内)	小麦
						4kg/10a		収穫14日前まで	散布	3回以内(出穂期以降は1回以内)	麦類(小麦を除く)
トリフミン水和剤	トリフルミゾール水和剤	3		1000～2000倍	60～150 μ g/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内			
ミラビスフロアブル	ピジフルメトフェン水和剤	7		8～16倍	800mL/10a	収穫14日前まで	無人航空機による散布	2回以内	大麦		
				1500～2000倍	60～150 μ g/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内	大麦		

(2) 大麦赤かび病の体系防除

大麦の赤かび病は、穂揃期（開花期）とその7～10日後に防除するのが最も防除効果が高い。
このため、2回防除を基本とする。

〔防除体系と防除効果〕

防除体系		1回目：穂揃期（開花期）	2回目：1回目の7～10日後	防除効果
体系1	液剤＋液剤	動 噴	動 噴	◎
		動 噴	無人ヘリ	◎
		無人ヘリ	無人ヘリ	◎
体系2	粉剤＋液剤	動 散	動 噴	○
		動 散	無人ヘリ	○
体系3	粉剤＋粉剤	動 散	動 散	○

〔体系1〕

液剤（噴霧機）＋液剤（噴霧機 or 無人ヘリ）

1回目＝穂揃期（開花期）	散布方法	+	2回目 ＝1回目防除の7～10日後	散布方法
トップジンM水和剤 シルバキュアフロアブル ミラビスフロアブル	噴霧機		ストロビーフロアブル トリフミン水和剤	噴霧機
			チルト乳剤25	

液剤（無人ヘリ）＋液剤（無人ヘリ）

1回目＝穂揃期（開花期）	散布方法	+	2回目 ＝1回目防除の7～10日後	散布方法
トップジンMゾル シルバキュアフロアブル ワークアップフロアブル ミラビスフロアブル	無人ヘリ		チルト乳剤25	無人ヘリ

〔体系2〕

粉剤（動散）＋液剤（噴霧機 or 無人ヘリ）

1回目＝穂揃期（開花期）	散布方法	+	2回目 ＝1回目防除の7～10日後	散布方法
トップジンM粉剤DL ワークアップ粉剤DL	動散		ストロビーフロアブル トリフミン水和剤	噴霧機
			チルト乳剤25 ミラビスフロアブル	

〔体系3〕

粉剤（動散）＋粉剤（動散）

1回目＝穂揃期（開花期）	散布方法	+	2回目 ＝1回目防除の7～10日後	散布方法
トップジンM粉剤DL	動散		ワークアップ粉剤DL	動散

(3) 麦類注意事項

なまぐさ黒穂病、裸黒穂病、雲形病

〔種子消毒〕

- ・ 浸漬薬液の量は種子容量と同等以上とし、液温は10℃以上で消毒する。
- ・ 浸漬消毒は、浸漬中に2～3回袋を上下するか種子を攪拌する。

〔耕種的防除〕

- ・ 採種圃産種子を使用する。
- ・ 発病株は抜き取って処分する。

裸黒穂病

- ・ 黒穂株は健全株よりやや早く出穂するため、早期に抜き取り周辺株への伝染を防ぐ。

雲形病

〔耕種的防除〕

- ・ 播種期が早いと秋期の感染、発病が多くなるので適期に播種する。
- ・ 厚撒き、窒素肥料過多で発病が多くなる。
- ・ 発病跡地の刈り株、こぼれ麦は放置せず、地中にすき込むなどして処分する。

雪腐病

- ・ 紅色雪腐病は、排水の良い軽しょう土（火山灰土）や施肥量の少ない場合発生しやすい。
- ・ 紅色雪腐病は、種子伝染する。
- ・ 褐色雪腐病は、排水不良など重粘土や融雪時に停滞水が多い場合に発生しやすい。
- ・ 雪腐小粒菌核病は、褐色雪腐病との併発が多い。病原力が弱く、被害は比較的少ないが、根雪の期間が長くなる山間、山沿い地帯に多い。

〔耕種的防除〕

- ・ 圃場の排水をはかる（うね立て時だけでなく、根雪前にも排水溝を整備する）。
- ・ 播種期が遅れると被害を受けやすくなるので、必ず適期に播種する。
- ・ 根雪前の窒素肥料の多用を避ける。
- ・ 前作に多発生した圃場は、作付けを避ける。

うどんこ病

- ・ 下葉から発生する。
- ・ 発病したら、早期に薬剤を散布する。
- ・ 薬剤は下葉にも十分にかかるよう散布する。

赤かび病

- ・ 出穂後、開花時に平均気温が 15℃以上で、降雨が続くとき多発する。
- ・ 本病発病麦は別仕分けを行い、食用や飼料用に使用しない。
- ・ 薬剤を選ぶ際は RAC コードを確認し、同一成分の薬剤連用は避ける。
- ・ 使用時期が「収穫 30 日前まで」の薬剤は、2 回目の使用を避ける。
- ・ トリフミン水和剤は出穂期から使用できるが、穂揃期での使用が効果的である。

株腐病

- ・ 暖冬年に発生が多い。

〔耕種的防除〕

- ・ 播種前に消石灰などを 100～150kg/10a 施用する。
- ・ 播種期が早いと秋期の感染が多くなるため、適期に播種する。
- ・ 春の発病を減らすため、厚播きを避ける。
- ・ 発病が多い場合は連作を避ける。
- ・ 被害麦稈を取り除く。